

第8回高知大学看護学会 シンポジウム

家族とともに支える看護 - 訪問看護師の立場から -

安岡しずか

医療法人新松田会 在宅ケアセンターあたご

在宅で訪問看護を実践していく中で、療養者とともに、家族の存在を考えなければ、より良いケアを提供することは困難です。週ベース1～2回、1日1時間程度の訪問看護師らが、常時サービスを提供することができないため、療養者を支え、安心して療養生活を継続できるように、家族と、療養者のニーズや、日々の介護方法について共に考え、合意をもって地域の多職種支援者とともに多機関でケア提供を行っています。

私たち訪問看護師は、日々の実践の中で、療養者を支援する家族を、療養者の生活に影響を及ぼす背景として捉えたり、療養者の日常生活の援助を担ってもらう役割としての資源と捉えることがあります。訪問看護でのアセスメントの中で、療養上のニーズにおいて課題を感じる側面について、調整をかけ、必要な社会資源が活用できること、各専門職の介入によって、家族の理解を促して、対処方法が獲得できるように関わっていきます。

療養者・家族が相互に支え合い、情緒的な繋がりをもち、慢性疾患や障がいを、受け入れ、向き合いながら、積極的に治療やケアを受け入れることができる存在と判断した場合、健康管理やセルフケア向上に向けて、地域の支援者や家族と共に療養者に働きかけます。

しかし、療養者と家族の意見の違いや、支

援者との価値観のズレが生じた場合、多くは療養者本人のニーズが叶えられるよう、チームの支援者が、家族を説得したり修正をかけようとしませんが、その場合、折り合いがつかずに難航することがあります。そのような中で、私達は、療養者にとっての家族を見るばかりではなく、家族の歴史とともに、様々な家族の形があることを考えます。今まで暮らしてきた過程の中で形成された、家族の一員としての療養者の位置づけから、家族員同士の関係性が構築されて今日があるため、それぞれの思いを受けとめながら、理解していく必要があります。

私たち専門職の価値観を押し付けることなく、双方にとっての最善を共に考えながら、新たな互いの妥協点を探っていくために、家族をケアの対象と捉える視点が重要になります。家族の発達段階や役割機能、対処行動を理解しながら認識を深める中で、家族の役割を再認識し、調整できれば、家族の能力が向上したり、それまでの認識や価値観が修正されることがあります。私たちは、療養者と家族、各関係機関の専門職とも、お互いに納得ができるよう、信頼関係の構築とパートナーシップを築き、地域でよりよい生活を送ることができるように、各専門職が手を取り合い、在宅ケアチームの中で支援していきたいと考えています。